

奈良県人口ピラミッド

人口ピラミッドは型によってそれぞれ名前がついているんだよ。
奈良県の人口ピラミッドはどんな形をして、どんな特徴があるのでしょうか。
今と40年前の人口ピラミッドを比べ、奈良県の人口について考えてみましょう。



人口ピラミッド

〔昭和45年、平成22年
(1970年)(2010年)〕

男

女



71歳

昭和14年の日中戦争の
動員による出生減

64・65歳

昭和20・21年の第2次
世界大戦終戦前後に
おける出生減

44歳

昭和41年(ひのえうま)
の出生減

・左の昭和45年のピラミッドは「星型」に、平成22年は「ひょうたん型」に近い形といわれるよ。
・平成22年に61～63歳の人たちは、昭和45年のグラフではどこにいるのかな？

61～63歳

昭和22～24年の
第一次ベビーブーム

36～39歳

昭和46～49年の
第二次ベビーブーム

平成22年
昭和45年

平成22年
昭和45年

16,000 14,000 12,000 10,000 8,000 6,000 4,000 2,000 0(人) 0 2,000 4,000 6,000 8,000 10,000 12,000 14,000 16,000(人)

出典：総務省統計局「国勢調査」



15歳未満人口は減り続けています。

奈良県の15歳未満人口は昭和55年の約29万人をピークに減り続け、平成22年には約18万人となっています。また、総人口に占める15歳未満の人口割合も、昭和50年の24.2%をピークに、平成22年には13.2%と大きく低下しています。



将来の人口ピラミッドの型は？

昭和45年に比べて、平成22年は30代以上の人口が多く、15歳未満の人口が少ないことがわかります。もし、このまま少子化や高齢化が進むと、どんな形のピラミッドになるのか考えてみて！



コラム